



心を通わせ 豊かな言葉の表現力を

副園長 米澤 千秋

5月初旬に植えた野菜の苗や花の種が日に日に生長し、「赤ちゃんピーマンだ」「芽が出たよ！」など、子どもたちは季節の移り変わりを肌で感じながら大切に育てています。

先日、5歳児クラスで保育者が「昨日はホールの大型積み木でお家を作って楽しかったね。今日もホールで続きをしたり、お家に必要なものをお部屋(保育室)で作って持って行ったりすることもできるよ！」と学級全体に伝えると、Aくんが「やった！自由自在だね！」と、満面の笑みで言いました。年長組になって使えるようになった大型積み木で遊ぶことができる嬉しさや、遊びに必要な物を作ってもっと楽しくするぞ！というワクワク感が「自由自在」という言葉に見事に込められているように感じられ、感心しました。また、Aくんの言葉を受けて学級の友達が大きくなるはずいたり目を合わせて微笑んでくれたりしたことで、Aくんの嬉しさやワクワク感がさらに膨らんだように感じられました。私も嬉しい気持ちになり、Aくんに「楽しみだね」と伝え、気持ちを共有しました。

2歳児クラスでは、普段はその場にはいない私が保育室に入ると興味津々という様子で、何人もの子が近くに来てくれました。「こんにちは。お料理してるのね。おいしそう」と伝えると、ママごとのコップを「どうぞ」と差し出し、私が飲む様子をニコニコじっと見ていました。「おいしいね。ありがとう」とコップを渡すと、とてもかわいらしくチョコンとお辞儀をしてくれました。また、ある子は「これ読んで」と『ミッケ』の絵本を持って来てくれて、「どこかな？どこかな？」「あった～！」というやりとりを繰り返し楽しみました。

保育・教育の指針となる『保育所保育指針』『幼稚園教育要領』では、言葉に関して経験してほしい内容として、次のようなことが示されています。「体の動きや表情、発声、喃語等を優しく受け止めてもらい、保育士等とのやりとりを楽しむ」「絵本や物語等に親しむとともに、言葉のやり取りを通じて身近な人と気持ちを通わせる」「人の言葉や話などをよく聞き、自分の経験したことや考えたことを話し、伝え合う喜びを味わう」などです。発達段階に応じてこのような経験を重ねることで、子どもたちの言葉に対する感覚や言葉で表現する力が育まれていきます。その際、欠かせない大切なことは、“心を通わせながら、応答性のある関わりをする”ということです。

自分なりの言葉で表現したときに、うなずいて聞いてもらったり、言葉で応答してもらったりすることで、さらに話す意欲が増します。また、自分の話を聞いてもらう経験を重ねる中で、人の話もよく聞こうという気持ちが育っていきます。

子どもたちが、保育者や友達と心を通わせ、会話を楽しめる環境を整え、豊かな言葉の表現力を育ててまいります。